

アドバンスド解剖学実習

科目責任者 徳田 信子
学年・学期 3 学年・1 学期

I. 前 文

解剖学の学びは、臨床医学に直結しています。これまでに培われた机上での学びを実習で深め、医師として必須の知識を体得してください。また、本実習は献体して下さる方があって初めて成立します。ご本人とご遺族のお気持ちを大切に、真摯に学んでください。

2 年生の解剖学実習同様、以下の学びが重要となります。ディプロマ・ポリシー「医学知識 1. 人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。」の学びの基礎を体得して頂きます。また、ディプロマ・ポリシー「プロフェッショナルリズム 1. 医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。2. 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。」「能動的学修能力 1. 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。」を積極的に学んでください。

この実習は、3 年生の1 学期までに学習した臨床の学びを、ご遺体で確認することができる貴重な機会です。これまでにご覧になった図譜やビデオでは理解できなかった点、疑問に思った点をまとめた上で、実習に臨んでください。

II. 担当教員

教 授	徳 田 信 子	解剖学
准 教 授	上 田 祐 司	解剖学
学内准教授	江 原 鮎 香	解剖学
講 師	山 口 剛	解剖学
助 教	北 沢 祐 介	解剖学
助 教	沢 登 祥 史	解剖学
助 教	橘 篤 導	解剖学

教 授	入 澤 篤 志	内科学（消化器）
教 授	志 水 太 郎	総合診療学
非常勤講師	中 館 和 彦	明治薬科大学薬学教育研究センター・教授
非常勤講師	高 橋 秀 雄	解剖学

III. 一般学習目標

人体の構造の全体像をとらえ、各器官の肉眼的な構造と基本的な機能を理解する。臨床的な重要性を意識しながら剖出を進め、個人差を知り多様性を認識する。また、協調性や自己問題解決能力を鍛え、献体の精神を学んで、人の心がわかる医師となることを目指す。

IV. 学修の到達目標

- 1) 人体の基本的構造を理解する。
- 2) 人体の構成要素を剖出・同定し、相互の位置関係を説明できる。
- 3) 臨床医学とのつながりを意識して学習を進める。
- 4) 組織学実習や他科目との連携学習により、器官の肉眼的構造と微細構造との関係を理解する。
- 5) 協調性やリーダーシップ、自己解決能力を身につける。
- 6) ご遺体に真摯に向き合い、献体の精神を理解し、人の心がわかる医師を目指す。

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

(1:反転授業形式(事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。)

2:ディスカッション 3:グループワーク 4:実習 5:プレゼンテーション 6:その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1-3	7	12	月		内臓, 神経・血管・神経, 骨と筋, 脳と脊髄 (1)	全 員	4
4-6		13	火		内臓, 神経・血管・神経, 骨と筋, 脳と脊髄 (2)	全 員	4
7-9		14	水		内臓, 神経・血管・神経, 骨と筋, 脳と脊髄 (3)	全 員	4
10-12		15	木		内臓, 神経・血管・神経, 骨と筋, 脳と脊髄 (4)	全 員	4
13-15		16	金		内臓, 神経・血管・神経, 骨と筋, 脳と脊髄 (5)	全 員	4

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

ミニテスト (10%), 提出物および実習態度 (90%) により, 総合的に評価する。

VII. 教科書・参考書・AV資料

様々な書籍が出版されています。

書店などで実際に手に取り, ご自分に合ったものを選択してください。

下記に例示します。

- 1) 教科書: グレイ解剖学, エルゼビア
- 2) 教科書: プロメテウス解剖学 解剖学総論/運動器系, 医学書院
- 3) 図譜: プロメテウス解剖学 コア アトラス, 医学書院
- 4) 図譜: ネットター解剖学アトラス, 南江堂
- 5) 実習書: 解剖実習の手びき, 南山堂
- 6) 実習書: 解剖学実習 カラーテキスト, 医学書院

VIII. 質問への対応方法

随時, 教員が対応します。早めに疑問点を解決して実習に臨んでください。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

二学年

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について，間違いが多い点などを解説します。

XI. 求められる事前学習，事後学習

3年生の1学期までに学んだ人体の構造について，立体的な把握が難しかった項目をまとめておいてください。予習すべき内容をe-learningや動画などの形式でも示すので，必ず取り組んでください。また，予習用に示されたe-learningや動画については，講義後の復習用にも用いてください。予習，復習に必要な所要時間はシラバス別冊に記載しています。

XII. コアカリ記号・番号

- A-1 プロフェッショナリズム A-1-1) 医の倫理と生命倫理
- A-2 医学知識と問題対応能力 A-2-1) 課題探求・解決能力
- D-1 血液・造血器・リンパ系 D-1-1) 構造と機能
- D-2 神経系 D-2-1) 構造と機能
- D-3 皮膚系 D-3-1) 構造と機能
- D-4 運動器（筋骨格）系 D-4-1) 構造と機能
- D-5 循環器系 D-5-1) 構造と機能
- D-6 呼吸器系 D-6-1) 構造と機能
- D-7 消化器系 D-7-1) 構造と機能
- D-8 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む） D-8-1) 構造と機能
- D-9 生殖機能 D-9-1) 構造と機能
- D-11 乳房 D-11-1) 構造と機能
- D-12 内分泌・栄養・代謝系 D-12-1) 構造と機能
- D-13 眼・視覚系 D-13-1) 構造と機能
- D-14 耳鼻・咽喉・口腔系 D-14-1) 構造と機能